



発行日 2015. 10. 23

生活クラブ連合会
TEL:03-5285-1898
FAX:03-5285-1839

★秋の「沃土会農業塾」再開しました（沃土会、埼玉）

「毎回、たくさんの発見の連続で、ワクワク！楽しいです」

♥沃土会での「農業塾」は雪害による中断を経て2年ぶりに再開となりました。

「種まきを1㎡に満たない面積でやるだけでも、時期、深さ、間隔、数、考えることがいっぱい。プロックリー等スーパーで陳列された状態のものでしかわからないものも、畑を見ればわかるようになりたい。道具の使い方も、シンプルな動作ですが、掘り過ぎてしまったり、土が上手に被らなかつたりとコツをつかめるように考えながら作業するのが、楽しかった。ひたすら同じことの繰り返しては決してない、のが農業なのだ実感した。（東京、20代男性）」

「種の大きさの10倍くらいの深さで播種する。野菜が育つのに大切な事は水、空気、土、種、少しの肥料。野菜をよく観察し、今何が必要かを見極める。勝手に育つのが良い、自然な状態で育つ環境を整える。過保護はダメ。どうしても時に手を貸すこと。本で読んだ知識とは違い、現実に農家の話が聞けて、とても楽しかった。（千葉、40代男性）」



春菊の収穫は手折り

「1つの作物にもたくさんの種類があって、植える時期や収穫する時期も違うのに驚きました。雨などの天候で収穫時期を過ぎてしまってもその年内に何度か収穫のチャンスがあることを知り、植物の強さを感じすごいなと思いました。（東京、30代女性）」

「とても新しい発見だらけで、勉強になりました。例えば、播種した後の水やりをしないことや、連作障害のことは知っていたのですが、技術によってはできること、他にも、使われていたクワの長さや畝の上にかける布の色の違い・・・たくさんありました。窒素、リン酸、カリの植物の吸収の順番等、色々な土に関することを聞くことができ、大変参考になりました。定植時のステンレスの棒の便利さにはビックリしました。（千葉、30代男性）」

「マルチには色々種類があり、白、緑、黒、白黒とそれぞれ気候に合わせて変えていくことということ。連作障害を防ぐには、アブラナ科の後にキク科のような根っこに殺菌作用のある作物が有効。土壌はpH6.5位が良い。状況によって、pH7に変えることもある等学びました。農業は覚えることがいっぱいだと改めて思いました。野菜の成長状態が土壌のトラブルを教えてくれるということに、なるほどなあ！と思いました。（埼玉、40代女性）」

「適当に種をまきましたが、芽が出るのは出ますが、もっとよりよくするには、やはりきちんと考えて種まきからする必要があるのだと感じました。たくさんのものが廃棄にまわっているような気がしますので、野菜の出荷基準についても知りたいと思います。（東京、30代女性）」



思い思いに種まき



小松菜の収穫は根を切って

★募集中の企画あります

●秋冬白菜の収穫作業（JA加美よつば 宮城県）

日程：11月21日（土）～11月22日（日）

宿泊：おりぎの森（農家民宿 食事つき）

・白菜は、雪深い加美よつばで主力の秋冬野菜です。生食用とキムチ用の加工用となります。

雪が積もる前にいっきに収穫したいものです。あと2人募集します

●セロリの収穫・出荷体験（鳥越農園 福岡県）

日程：12月5日（土）～12月8日（火）

宿泊：現じいの森（食事つき 滞在費実費負担）



・有機肥料で試行錯誤をしながら栽培しています。セロリの収穫から出荷までの一連の体験ができます。責任を持って頑張っている若者にも会えます。あと2人募集します

●農薬をつかわない野菜づくり（八ヶ岳やさい倶楽部 山梨県）

日程：2016年3月19日（土）～3月20日（日）

宿泊：国際自然大学校 日野春校（自炊 滞在費6000円）

参加条件：組合員とその家族限定、女性のみ

・農家にはいって、農薬を使わない、春の種まき、植え付け等が体験できます。あと2人募集します

秋冬企画の問い合わせ・申込は、夢都里路くらぶTEL:03-5285-1898まで

次号発行予定 11/20ごろ